



第37回 愛媛形成外科研修会

抄録集

日 時 平成 28 年 6 月 11 日(土) 17 時 00 分～
場 所 松山市民病院 永瀬会館 2 階 多目的ホール
愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5
TEL:089-943-1151

当番世話人

松山市民病院 形成外科 手塚 敬

第37回 愛媛形成外科研修会

研修会について

1. 参加受付は、16時30分より会場で行います。
2. 参加費として2,000円を受付にて申し受けます。
今回の特別講演は、日本形成外科学会の「領域講習」に認定されております。
「領域講習」として受講される専門医の方は受講料として1,000円を申し受けます。
3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. Section I、IIでの討論時間は、一題あたり3分～5分を予定しております。
5. PCはWindows7、Power Point 2013を使用しての発表になります。
(当日は、USBメモリーあるいはPC本体を持参して下さい。)

会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 1 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成 10 年 7 月 4 日	15 名
第 2 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成 10 年 12 月 5 日	17 名
第 3 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成 11 年 6 月 19 日	20 名
第 4 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 11 年 11 月 27 日	19 名
第 5 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 6 月 24 日	17 名
第 6 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 12 月 9 日	20 名
第 7 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 6 月 23 日	23 名
第 8 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 12 月 8 日	23 名
第 9 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 6 月 8 日	27 名
第 10 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 12 月 14 日	27 名
第 11 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 6 月 28 日	25 名
第 12 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 12 月 13 日	25 名
第 13 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 6 月 26 日	26 名
第 14 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 12 月 4 日	29 名
第 15 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 6 月 18 日	31 名
第 16 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 12 月 10 日	35 名
第 17 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 6 月 24 日	31 名
第 18 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 12 月 9 日	26 名
第 19 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 6 月 16 日	37 名
第 20 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 12 月 15 日	30 名
第 21 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 6 月 14 日	30 名
第 22 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 12 月 6 日	30 名
第 23 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 6 月 27 日	32 名

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 24 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 12 月 12 日	28 名
第 25 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 6 月 19 日	34 名
第 26 回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 12 月 11 日	30 名
第 27 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 6 月 18 日	31 名
第 28 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 11 月 26 日	25 名
第 29 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4 階 末広	平成 24 年 6 月 23 日	34 名
第 30 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 24 年 12 月 1 日	26 名
第 31 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 25 年 6 月 22 日	36 名
第 32 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2 階 楓の間	平成 25 年 11 月 30 日	30 名
第 33 回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 26 年 6 月 21 日	32 名
第 34 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カンファレンス会議室	平成 26 年 11 月 29 日	32 名
第 35 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 27 年 6 月 27 日	36 名
第 36 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	HITO 病院 3 階 大会議室	平成 27 年 11 月 21 日	27 名
第 37 回	手塚 敬 (松山市民病院 形成外科)	松山市民病院 2 階多目的ホール	平成 28 年 6 月 11 日	

松山市民病院へのアクセス

松山市民病院
松山市大手町2丁目6-5

JR松山駅から徒歩5分
伊予鉄横河原線・大手町駅から徒歩3分
松山自動車道・松山ICから車で約20分
松山空港から車で約20分
松山観光港から車で約25分



車の進入経路

病院周辺道路は**一方通行**がありますのでご注意ください。

表示箇所のほかにも病院駐車場がありますが、休日は開いていませんので、表示の駐車場をご利用ください。



愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL: 089-943-1151

お車で来られた方に無料駐車券を配布します

プログラム

Section I (17:00~17:40) 座長: 愛媛県立中央病院 尾崎 絵美 先生

1. 両側母指多合指症の1例 (5分)
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹 他
2. 腹腔鏡手術後の臍部感染に対し、病巣切除と臍再建を行った1例 (3分)
松山市民病院 形成外科 松本 麻由 他
3. 転移を繰り返し長期間生存している悪性黒色腫の1例 (5分)
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 松満 紗代子 他
4. 右鎖骨部に生じた小児の線維性過誤腫の1例 (5分)
松山赤十字病院 形成外科 山崎 裕行 他
5. 左足底扁平上皮癌の1例 (5分)
四国がんセンター 形成外科 山下 昌宏 他

Section II (17:40~18:20) 座長: 松山市民病院 上村 由美子 先生

6. 粉瘤を疑った白線ヘルニアの一例 (5分)
HITO病院 形成外科 米田 武史 他
7. 腹部皮弁により再建したデグローピング損傷の1例 (3分)
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 戸澤 麻美 他
8. 皮弁救済できた遊離腓骨皮弁の2例 (5分)
静岡がんセンター 再建・形成外科 中川 雅裕 他
9. 下口唇扁平上皮癌切除後の再建に cross lip flap を用いた3症例 (5分)
愛媛県立中央病院 形成外科 徳永 和代 他
10. 第一二鰓弓症候群の治療経過 (5分)
愛媛県立中央病院 形成外科 小林 一夫 他

総会 (18:30~18:45)

特別講演 (18:45~19:45) 座長: 松山市民病院 手塚 敬 先生

「顔面の形態と機能の再建」

講師: 大阪医科大学附属病院 形成外科 上田 晃一 先生

共催: 松山形成外科医会 愛媛形成外科医会

Section I (17:00~17:40) 座長: 愛媛県立中央病院 尾崎 絵美 先生

1. 両側母指多合指症の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○森 秀樹、三宅 啓介、戸澤 麻美、村上 達郎、松満 紗代子、中岡 啓喜

(5分)

2歳男児。出生時より両側母指に多合指症を認めた。前腕骨はほぼ正常範囲内であったが、両側とも母指中手骨は2本認め、基節骨以遠は3指節を含めて複雑な変形を認めた。1歳時に稼働性の少ない指の切除を行って経過観察しているが、今後の治療方針につきご意見をいただきたい。

2. 腹腔鏡手術後の臍部感染に対し、病巣切除と臍再建を行った1例

松山市民病院 形成外科

○松本 麻由、手塚 敬、上村 由美子

(3分)

症例は37歳女性。5年前に卵巣嚢腫茎捻転に対して他院にて腹腔鏡下に手術を受けた後、臍部の瘢痕に炎症を繰り返していた。腹痛を主訴に当院救急外来を受診し、翌日当科を受診した。初診時、臍部に著明な発赤、腫脹を伴う膿瘍を認め、切開排膿処置を行った。炎症が沈静化するのを待ち、約1か月後に病巣切除、臍再建を行った。術後約3ヵ月で臍部の形態は比較的良好に保たれており、若干の考察を加えて報告する。

3. 転移を繰り返し長期間生存している悪性黒色腫の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○松満 紗代子、森 秀樹、戸澤 麻美、村上 達郎、三宅 啓介、中岡 啓喜

(5分)

62歳男性。52歳時に右頬部悪性黒色腫を切除された(T2aN0M0, StageIB)。2年後右頸部リンパ節転移、その6年後に右肺S3に転移をきたした。さらに1年半後に肺多発転移をきたしたため、現在免疫チェックポイント阻害薬を中心とした治療を行っている。本症例の供覧を通して、悪性黒色腫に対する治療の変遷と今後の課題について考察を行った。

4. 右鎖骨部に生じた小児の線維性過誤腫の1例

松山赤十字病院 形成外科

○山崎 裕行、庄野 佳孝

(5分)

症例は9ヶ月、男児。生下時は異常を認めなかったが、生後5ヶ月頃、右鎖骨部の皮下腫瘍に家人が気づき当科を受診。反応性のリンパ節腫大を疑い経過を見ていたが、1ヶ月後に腫瘍の増大を認めたため、外科的切除術を施行し上記診断に至った。線維性過誤腫は乳幼児期に発生する比較的稀な皮下軟部組織腫瘍であり、特徴的な病理組織像を呈する。乳幼児期に発生する皮下腫瘍では本疾患も鑑別に挙げる必要がある。文献的考察を加えて報告する。

5. 左足底扁平上皮癌の1例

四国がんセンター 形成外科

○山下 昌宏、河村 進、山崎 由佳

(5分)

症例は66歳男性。1年半前よりの足底潰瘍を主訴に当科紹介受診した。既往として胃癌があり、フォローのPET-CTでは胸椎に骨転移が疑われる所見が認められた。左足底扁平上皮癌について腫瘍切除、鼠径リンパ節郭清を行った。病理組織結果では断端陽性で追加切除をおこなったが断端陽性であった。治療方針について文献的考察を加えて報告する。

Section II (17:40~18:20) 座長: 松山市民病院 上村 由美子 先生

6. 粉瘤を疑った白線ヘルニアの一例

HITO病院 形成外科

○米田 武史、大川 勝正、谷川 和史 (外科)

(5分)

症例は90歳男性。臍上部の粉瘤や脂肪腫などの皮下腫瘍が疑われ、当院紹介となった。CTで粉瘤などの皮下腫瘍を疑い手術を行った。術中所見は、被膜を有する脂肪腫に似た腫瘍であったが、基部は腹腔内と連続していたため白線ヘルニアと考え、ヘルニア内容、ヘルニア嚢の切除とヘルニア門の閉鎖を行った。腹部正中の皮下腫瘍に対しては白線ヘルニアも鑑別に挙げる必要がある。若干の文献的考察を加えて報告する。

7. 腹部皮弁により再建したデグロービング損傷の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○戸澤 麻美、森 秀樹、三宅 啓介、村上 達郎、松満 紗代子、中岡 啓喜

(3分)

62歳、男性。タオル工場のローラーに巻き込まれて右手デグロービング損傷受傷。右手MP関節から末梢の皮膚は、末節骨および深指屈筋腱とともに剥奪された。同日緊急で腹部にポケットを作成して残存指を埋入した。3週間後に切り離し、掌側には肉芽の上に分層植皮術施行した。複数回にわけて指の分離、皮弁の修正を行った。再建方法について、文献的考察を交えて報告する。

8. 皮弁救済できた遊離腓骨皮弁の2例

静岡がんセンター 再建・形成外科

○中川 雅裕、井上 啓太、三枝 紀子、嶋本 涼、田中 達也、長島 隼人、赤澤 聡
(5分)

遊離皮弁の術後血栓には迅速な対応が必要である。遊離腓骨皮弁にて下顎再建を行った2例で術後静脈血栓を生じ、血栓除去と再血管吻合にて皮弁救済できた。当院の皮弁救済法を報告する。症例は74歳と77歳の男性。下歯肉癌にて下顎区域切除と遊離腓骨皮弁による下顎再建を行った。それぞれ術後1日と2日目に吻合部静脈血栓を生じた。病棟で開創し、静脈血栓を確認した後、フォガティカテーテルで血栓除去し血管再吻合を行った。

9. 下口唇扁平上皮癌切除後の再建に cross lip flap を用いた3症例

愛媛県立中央病院 形成外科

○徳永 和代、小林 一夫、中川 浩志、浜田 裕一、尾崎 絵美、石野 憲太郎
(5分)

悪性腫瘍切除などに伴う下口唇の全層欠損が全体の3分の1以上になると、cross lip flap を用いることが多い。今回、53歳男性、74歳男性、80歳女性の下口唇扁平上皮癌切除後の再建に、Estlander flap、cross lip flap を用いて再建をおこなった。各症例を評価しながら、下口唇全層欠損の再建法について考察する。

10. 第一二鰓弓症候群の治療経過

愛媛県立中央病院 形成外科

○小林 一夫、中川 浩志、濱田 裕一、徳永 和代、尾崎 絵美、石野 憲太郎

(5分)

巨口症、副耳、顔面半側劣成長のある8歳男児の咬合不全に対し、下顎骨延長を行いました。成長とともに顔面非対称、頤劣成長、咬合の傾斜が認められ、22歳時に上下顎の骨切りを計画しました。左三叉神経下顎枝の下顎骨内走行異常のため、下顎骨切りができず、肋骨移植による下顎枝延長と上顎骨切りに変更を余儀なくされました。左右非対称・頤修正するため頬骨・頤に人工骨による augmentation を施行した症例を報告します。

総会 (18:30~18:45)

1. 次回研修会の日程
2. その他

特別講演 (18:45~19:45) 座長: 松山市民病院 手塚 敬 先生

「顔面の形態と機能の再建」

講師: 大阪医科大学附属病院 形成外科 上田 晃一 先生

硬組織と軟部組織を解剖学的に忠実に再建することにより、形態と機能の両方が再建される。最近では顔面の切除された筋肉を再建することによって、上眼瞼や口唇、軟口蓋の機能再建を行っている。

略歴

1984年(昭和59年)大阪医科大学卒業

同年 大阪医科大学形成外科学教室入局

1986年 高知県近森病院

1989年 埼玉医科大学総合医療センター形成外科

1992年 大阪医科大学助手(形成外科学教室)

1995年 大阪医科大学講師(形成外科学教室)

1999年 英国Oxford大学 Department of Human anatomy & Genetics(visitingresearch fellow)

2000年 大阪医科大学助教授(形成外科学教室)

2004年 大阪医科大学教授(形成外科学教室)

理事 日本形成外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本創傷外科

評議員 日本マイクロサージャリー学会、日本美容外科学会、日本抗加齢医学会

学会 口蓋裂学会、日本シミュレーション外科学会、日本手術手技学会

Active Member World Society of Reconstructive Microsurgery

Associate Member International Society of craniofacial surgery

専門分野 マイクロサージャリー、頭蓋顎顔面外科、唇顎口蓋裂、ケロイド・肥厚性瘢痕、アンチエイジング

研究分野 接着分子阻害剤を用いた再灌流障害の抑制や同種皮弁移植の拒絶反応抑制、ケロイドのエネルギー

MEMO